

第2回「教育を語り合う会」記録

日時：令和5年11月18日（土）9時30分～11時30分

場所：真鶴町民センター3階 講堂

参加者：48名（8グループ編成）

進行：神谷（県西教育事務所：社会教育主事）

BGM：「Mana Manazuru」

（作詞；勝山千帆 作曲；MIDORI ボーカル；MIDORI）

開会

- ・進行役の自己紹介。
- ・「教育を語り合う会」は社会教育のフィールドで学校教育を語る場。休憩、水分補給は自由。

「教育を語り合う会」の趣旨等説明

○趣旨

- ・後世に誇れるような、素晴らしい学校を町民みんなで創りたい！
- ・一貫教育校の意義について共通理解を図りたい！

○気をつけたいこと

- ・この場は何かを決定する場ではなく、みんなで考える場であること。
- ・相手に何かを求めたり、責めたりする場ではなく、自分なら何ができるかを考える場であること。

アイスブレーキング（意思表示ゲーム）

- ・参加者は質問に対して、グー（そう思う）チョキ（どちらとも）パー（思わない）で答える。
- ・進行役の「せーの、ドン」の掛け声で一斉に手を挙げる。
- ・「第1回目の『語り合う会』にも参加していた。」
- ・「真鶴町といえば『三ツ石』だ。」
- ・「私は、魅力のある人物だ。」

外から見た真鶴の魅力

- ・レンタサイクルを借りて町内を散策。「外から見る真鶴町の魅力」を紹介。
- ・真鶴駅、岩海岸、岩小学校跡、校庭の銅像、真鶴港からの景色、真鶴港、鷗窟、貴船神社、戦没者の慰霊碑、貴船祭り、ジオパーク、遠藤貝類博物館、三ツ石海岸、お林、中川一政美術館、地域の掲示板、真鶴町の全景。
- ・海あり山あり森もあり。様々な教育資源があり、人が集まる行事、人々の活動もある。何て魅力あふれた町なのだろうと思った。
- ・魅力とは強みではないかと思う。魅力こそが強み、強みこそが魅力。

真鶴町の先生（幼稚園・小中学校）に聞いた真鶴町の教育の強み

- ・連携のしやすさ（幼小中、学校と町・委員会）
- ・教職員全体で、一人ひとりの子どもを見ることができる
- ・地域教材が豊富（漁業、石材、お林、自然等 町の魅力）
- ・学校教育と社会教育が充実している

- ・町民が教育熱心、学校に協力的（外部人材、職場体験学習 等）
- ・子どもから大人まで、一丸となって盛り上げる力（貴船まつり、地域行事）
- ・子ども（地域愛の深さ、子ども同士がお互いを良く知っている、学年を超えた関わり）

ワークショップ1「真鶴町の教育の強みってなんだろう？」

- ・自分の考えを各自付箋紙（1枚に一つの考え）に書いた。
- ・その後、付箋紙を模造紙に貼りながら、グループ内で意見交換を行った。
- ・最後に2つのグループが、話し合った内容を全体に発表した。
- ・付箋紙に書かれた内容の主なものは次の通り。（カテゴリー化等は、後日事務局で行った。）

○キーワード『子どもと住民との顔の見える関係（地域コミュニティ）』

- ・幼から中まで皆で成長を見守ることができる。
- ・町の1つずつの小中なので、子供の成長を見届けられる。
- ・子どもが少ないので、関わりが深い。
- ・子どもの頃から続く人間関係
- ・地域のつながりが強い。
- ・子どもたちのことを知っている近所のおじさん、おばさんが多い。
- ・高齢の方が人なつっこく声をかけてくれる。
- ・人が少ないが強みになっている。
- ・地域との距離
- ・地域と子どもたちとの距離が近い。
- ・入学前から安心感!!
- ・乳児段階からのお付き合い
- ・規模がアットホーム
- ・顔見知り
- ・地域全体で子どもの見守りができる。
- ・地域と距離が近いこと
- ・町の人々とのつながり
- ・地域がせまいので地元密着
- ・小さな町だからこそ、周りの大人が見守っている。
- ・地域・行政・学校の距離の近さ
- ・人とのキョリが近い。
- ・地域の目。子どものことをよく知ってくださっている。
- ・地域との温かい関わり
- ・個性の尊重（名前など知っている。）
- ・子どもの顔と名前がわかる。
- ・声が届く、届きやすい。
- ・あたたかな雰囲気。町でそだてる。
- ・あたたかな雰囲気。
- ・町ですれちがった時に「おはよう」「おかえり」と声をかけやすい。
- ・地域の人と多世代交流できる。
- ・多世代交流が自然とできている。
- ・世代を超えて子どもと関われる。

- ・町の人々がおおらかで話しやすいので、教育も開放的なように思う。
- ・地域の人があたたかい。
- ・地域の人が率先して町民と関わる＝コミュニケーションサイクル（みんなが顔見知り）
- ・横のつながりだけでなく、縦、ななめと結びつきが広がる。
- ・地域としてまとまりやすい。
- ・小さい分、地域の目が行き届く見守り体制
- ・園とのつながり。みんなが子どものことを知っている。
- ・新しい住民の方とのつながり → 多様なつながりで真鶴の魅力がより強固に
→ コミュニティの場（真鶴出版、草柳商店）
- ・都会からの移住者増。教育観の違い。ディスカッションできる。
- ・新しい方もどんどんと受け入れる⇒活性化へ
- ・情報共有のスピード（ロコミの速さ）

○キーワード『住民と学校との協力関係（住民の心）』

- ・地域の方々が協力的
- ・地域が協力的
- ・人との距離が近く協力的（行政、住民の方etc. …）
- ・地域の人が学校の活動に興味をもっている。
- ・学校と地域の人達の関係が近い。
- ・保護者、ボランティアが積極的！
- ・ボランティアの人が多い。
- ・町の人が熱心で協力的。町の先生役がたくさんいる。
- ・地域の人との交流が多い。町の方々がたくさん協力してくださる。
- ・地域力。つながり。地元の方が多い？
- ・地域の協力がが多い。
- ・人材を独り占め
- ・子どもたちの居場所がたくさんある。
- ・子どもたちの居場所が比較的多いように思う。
- ・この授業しよう…「あの方に聞いてみよう」が思い浮かんでくる。
- ・地域人材。いつも助けてくださる。
- ・小さな町なので、住む人たちの得意なことが分かる。
- ・園、小中学校の先生方が大変協力的
- ・子供を大事にしている。

○キーワード『豊富な教材（自然・歴史・産業）』

- ・自然に囲まれた環境
- ・自然が豊かなので教育に生かすことができる。
- ・豊かな自然（海・山）⇒ 学習素材
- ・真鶴の自然・歴史・産業を身近で学習できる。ふるさと教育がある。
- ・地元で教育教材が豊富
- ・ふるさと教育
- ・豊富な教材
- ・豊かな教材（財）
- ・自然を生かした教育ができる。
- ・お林・海。自然が豊か。

- ・豊かな自然（いやし）
- ・学びの要素が多い（海、石材）。
- ・すぐそばに大自然
- ・海の学校
- ・地域教材の充実
- ・自然体験ができる。
- ・町たんけん楽しい!!
- ・海と山、みかん
- ・自然・歴史に富み、ふるさと教育につなげやすい。
- ・自然の中で学び、生活することが日常的に行える。
- ・海や石材、漁業などの地域の産業についての学習がなされている。
- ・自然豊か ⇒ 地域の教材が豊か
- ・子ども（大人も）にとって、自慢となる物（魚、みかん、小松石）がある。
- ・教育に生かせることがたくさんある。
- ・豊かな自然に囲まれて、自然に恵まれた育ち（体験）ができる。
- ・町内の海・御林・漁業・石材・歴史をすべて授業に絡めて町のことを通じて学べるところ。
- ・自然が豊かな町ならではの教育
- ・豊富な教育資源（自然、人）
- ・“自然に触れる”（お林、海等）他の地域ではできない経験ができる。
- ・実際に経験、体験できること（漁業体験など）
- ・地域に密着
- ・教材化できる（漁業、石材、みかんなど）地域素材がたくさんある。
- ・海の学校。真鶴の強み。時間をかけてどっぷり体感したい。
- ・自然がまわりにある。
- ・自然にふれあえる授業ができる。
- ・フィールドが近くて自然が豊か。
- ・岩海岸（泳げる、体育の授業）
- ・漁業、みかん畑、小松石の採石場
- ・シュノーケルができる美しい海
- ・自然環境を生かした体験教育ができる。
- ・きぶねじんじゃとうみがちかい。
- ・ととのえられていない自然
- ・海も森もすぐに行けるキョリにある。
- ・自然が多い。
- ・自然が身近。
- ・海も森も近く、学べる環境がある。
- ・海の学校の授業がある。
- ・地域から学べることが多い。国語：歌碑など、理科：自然一生物、他にも。
- ・美の基準
- ・歴史がある（貴船神社、貴船まつり）。
- ・祭りなど伝統を大事にしている。
- ・様々なまつり（伝統）がのこっている。
- ・地域行事への参加

- ・真鶴大好きっ子を育てる。
- ・漁船に乗る体験（今はなくなった…？）
- ・真鶴の自然。今の小学校では活かされていないように感じています。
- ・昔産業、新産業

○キーワード『小規模校の魅力（連携）』

- ・少人数学級である。
- ・少人数
- ・少人数ならではの他学年との繋がり
- ・少人数
- ・幼小中1つずつある。つながりやすい。
- ・幼小中の関わりが多い。（教員、生徒、行事）
- ・先生との距離が近い。
- ・1学年1クラスで9年間
- ・一園一小一中、連携がしやすい。
- ・小さな町なので、幼（保）小中で連携しやすい。
- ・少人数で目が行き届く。
- ・チャンスが多い。
- ・少人数なので、主役の場が多くなる。
- ・継続的な教育
- ・少人数による学級集団
- ・深い人間関係
- ・コンパクト
- ・子どもの数が少ないことで、小中一貫の教育がしやすい。
- ・コンパクトな環境（少子）
- ・少人数なのでみんなの顔が分かる。
- ・小規模（人数）だからできること
- ・一小一中であり、町全体が学区である。
- ・幼小中の連携
- ・きめ細かい教育が可能。
- ・少人数の行き届いた指導が受けられる。
- ・交流も多い＝みんなが知り合い
- ・ずっと同じメンバーで学ぶため、段階を踏んだ学習ができる。
- ・連携（幼小中）
- ・ずっと変わらない仲間との安心感
- ・きずな・信頼感
- ・幼稚園→小学校→中学校と1つの施設なので、連携して教育が進められている。
- ・一人ひとりがチャレンジする機会があるところ。（友人のことを濃く知ることができる！）
- ・人数も少ないからか？小～中の友人との絆が強まる場所
- ・幼・保・小・中一体的な教育
- ・少数精鋭の教育（一人ひとりを大切に）
- ・少人数なので全体のことがよくわかる。
- ・異世代交流ができる。
- ・各学年の人数があまり多くない。

- ・中1の4月からグループワークで意思表示できる環境
- ・中学校の学習発表会で幼～中と一緒に歌を歌う。
- ・職員が少ない。⇒ チームワーク、意思疎通しやすい。
- ・保護者と保護者が近い。

○キーワード『真鶴の子どもたちの姿（成長）』

- ・子どもたちの仲が良い。
- ・学年みんな仲良し（よく知っている。）
- ・全校生徒が少ないので、みんな仲良し。
- ・みんな仲良い。
- ・子どもたちがかわいい。
- ・子供たちがやさしい。
- ・知っている子が多く、楽しそう。
- ・異学年交流が多い。みんなで助け合っていると思います！
- ・子どもたちが素朴でありのままで登校し、あたたかさを感じる。
- ・上級生が下級生のめんどろをよく見ている。（学校だより等から）
- ・子ども同士の縦のつながり
- ・幼稚園楽しい。子どもが考えて活動できる。ここから自由（主体）を広げたい。
- ・子どもたちが自信をもって生活している。
- ・全部好き。
- ・大人になってから自分の住む町の魅力を語れるようになる。
- ・真鶴への愛があり魅力が語れる。一度出ても戻ってくる。地元を盛りあげたい。友達とのつながりが強い。

○キーワード『学校への支援体制（行政）』

- ・学校の先生以外に支援する方が多くいて心強い。
- ・支援員が多くいる。毎日助けていただいています！
- ・定員外のスタッフなど町が学校教育に手厚い。
- ・学校の中に人員を入れてくれる環境
- ・他市町にはないと思う支援の多さ
- ・人との距離が近く協力的（行政、住民の方etc. …）再掲
- ・学校だけでなく、社会教育もさかん。
- ・美術館が身近にあるので、絵画に触れる機会が多く、子どもたちも絵がうまい。
- ・社会教育施設（博物館、美術館、図書館）
- ・社教施設同士の連携がし易く、学びを深めることができる。
- ・博物館、美術館、図書館などが充実している。
- ・博物館、美術館がある。
- ・美術館、博物館、図書館、大学の研究施設など様々な施設がととのっている。
- ・環境よい中、安全な教育。安心してらせる。
- ・教育予算、多め。
- ・バス・車をすぐ出してくれ、活動の幅が広がる。
- ・遊具がたくさんある。
- ・運動場が広い。
- ・昨年秋、教育委員会で一般人、中学生共に呼びかけられて、原爆の実体験をされた方の話を聞いた。

- ・サポートの先生が多く手厚かった（4、5年前は…）。今は少ない。
- ・スクールバスがある。⇔ 家が遠い子と遊べない。
- ・コミュニティバスで施設に放課後、ちょっと寄れるといい。

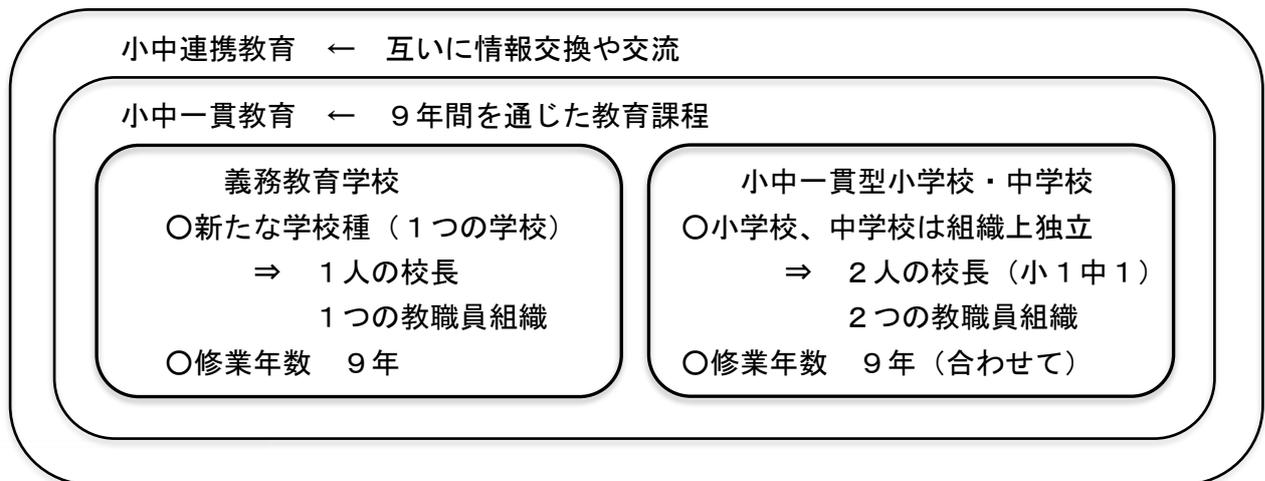
○その他

- ・食べ物おいしい。（魚など、給食）
- ・給食がおいしい！（みかん、カマス、あたたかい、自分たちで育てたもの）
- ・まなづるにはみせがいっぱいある。
- ・駅から学校まで歩いていかれる。
- ・伸びしろ（アナログ脱却）
- ・盛り場や非行に走りやすい場がない。

小中一貫教育が求められる背景・理由についての説明

- (1) 義務教育の目的・目標の創設
- (2) 教育内容や学習活動の量的・質的充実
- (3) 発達の早期化等に関わる現象
- (4) いわゆる「中1」ギャップ
- (5) 社会性育成機能の強化の必要性
- (6) 学校現場の課題の多様化・複雑化

小中一貫教育制度についての説明



第2回学校建設準備委員会の報告

- 新たな学校は「施設一体型」に！
- （主な理由）
 - ・一貫教育の良さをより引き出すため
 - ・隣接型、分離型に比べ自由度が高い
 - ・子どもの数が減っていく現状がある
 - ・費用対効果を考えると一体型が良い

ワークショップ2「一貫教育校に望むことは？不安なことは？」

～小学生と中学生が同じ場で学ぶことの良さとは？考えられる課題とは？～

- ・自分の考えを各自付箋紙（1枚に一つの考え）に書いた。
- ・その後、付箋紙を模造紙に貼りながら、グループ内で意見交換を行った。

- ・最後に1つのグループが、話し合った内容を全体に発表した。
- ・付箋紙に書かれた内容の主なものは次の通り。(カテゴリー化等は、後日事務局で行った。)

望むこと・期待すること

○キーワード『学習・カリキュラムの充実』

- ・放課後の学習支援
- ・習熟度に合わせたサポートができそう。
- ・よりつながりのある学習内容
- ・教科担任制
- ・情報科の助けをうけられる。
- ・専門的な教育
- ・教育のつながり(学習、個人に対して)
- ・小6の子→中1に上がる。授業を体験できる。不安を減らせる!!
- ・発達年齢に応じた人権教育が充実する。人権=楽しく⇒「気づきの多い子へ」
- ・柔軟な教育
- ・小中学生が同じ環境で学べるよさ
- ・小学生が学ぶ、中学生が学ぶ。お互いに学び合える。
- ・同じ場(小中)であっても、子どもの成長に応じた内容は必要だと思います。
- ・発達段階に応じた教育
- ・将来の方向(キャリア教育の一貫性)
- ・9年間のカリキュラム(子ども、教員)(学びの連続性)
- ・教育理念・方針、学校生活のあり方の統一
- ・自立した真鶴の子ども達のためのゴールまでの9年間で、基礎作りが可能。
- ・多様なカリキュラムをより良いものに。
- ・「体験から学びへ」深められる。(個の学び、海・環境・SDGs。)
- ・学力アップ → 高校入試
- ・人数がふえることで、できることが広がる気がする。
- ・カリキュラムをより計画的につくることができる。
- ・特徴のある教育コンテンツ
- ・今ある良い教育策や体系をぜひ存続して欲しい!!
- ・真鶴町からこれからのモデルとなる学校教育の姿が発信できる。
- ・6・3? 4・3・2?
- ・視野がせまくならないように、広域交流も必要である。
- ・国際交流。世界に魅力を発信
- ・ICT教育で広域交流
- ・閉鎖的になってはいけない。他地域との交流
- ・教室以外にも学べるスペースを設けてほしい。(自分の好きな場所で授業を受けられる)
- ・広い世界を知るためには、探求基地となる場、人を全ての子に確保することが必要。
- ・同じ場(小中)で学ぶ。地球温暖化について、戦争と平和について、真鶴町の文化や歴史他について。
- ・何年かにわたってプロジェクト学習にとりくめること
- ・興味のある小学生が、早い段階で学べる環境を持つ事ができる。
- ・小田原など他地域との広域交流、全国学力けんさ必要!

- ・広域交流や広域学力検査、広域授業等を実施し、若いうちから広い世界を知り経験できる場として学校や教育を提供してあげたいと考えます。

○キーワード『交流・つながりによる成果』

- ・人間関係の深まり（横だけでなく縦も）
- ・思いやりなど育てやすい。
- ・異学年交流
- ・少子化の中、コミュニケーションカウパ
- ・中1ギャップの解消（なめらかな接続）
- ・上級生へのあこがれ
- ・互いの成長度が分かる（見える）。
- ・（子供の年代）むかしみたいな交流の活性化
- ・関わりが増える教育活動に。
- ・現状の1～6年の中での縦割り班以外の組み合わせなど、教育活動の幅が広がる。
- ・弱い人を助けることの大切さが学べる。
- ・思いやりをはぐくみたい。15さいー6さい。きっと優しさにあふれる。
- ・中1ギャップがなくなる。
- ・ギャップの解消
- ・中1ギャップの解消につながりそう！
- ・中3の姿を見て育つ。
- ・「すごい」「やってみたい」言い合える。
- ・6・3以外での区切りができる。→ リーダー経験増加
- ・お手本、たくさんある。
- ・学年を越えた仲の良さ
- ・先輩・後輩のしがらみ少ない。
- ・子どもにとって安心・安全な基地としての人（先生、友）、場がすぐ近くにいる。
- ・自分の近い将来を想像することができる。
- ・将来像がみえること（小学生→中学生）
- ・9年の区切り方をうまく活用
- ・小6の子どもたち、中3の子どもたちの成長の場を確保したい。
- ・コミュニケーション拡大を視野に入れる。
- ・広い世界へのギャップ軽減。
- ・小1、かわいがってもらえていい！
- ・より大きくなる集団
- ・9年間のひらきがある中での人間関係づくり
- ・段階的なつながり
- ・外あそび、子供同士で教え合える。
- ・環境ガラッと変わるストレスを軽減できる。
- ・タテのつながりの強化→仲の良さを継続
- ・子ども同士のつながりの継続（安心感）
- ・小さなコミュニティにいるより、大きなコミュニティにいることのできる安心感。
- ・先の見通しを持つ（持てる）。
- ・あこがれ、ゴールの姿
- ・自由に交流ができる。

- ・学年を越えた関わり
- ・先生も子どもも皆、顔が見えることでの安心感
- ・学年をこえて交流
- ・子どもが減ってくるからこそ、交流をより多く。
- ・上級生の意識の向上
- ・1つの行事をつくりあげ達成できる。
- ・学校として生徒数が多くなるので、活動が増える。
- ・学校行事の調整がしやすい。
- ・交流のきっかけが増える。
- ・友だちがふえる。
- ・中1ギャップが少ない。
- ・小中のギャップのなさ
- ・兄弟姉妹が少ない子どもが多いので、広い年令の子どもと交流できる。
- ・異学年交流がやりやすい。
- ・中学生が小学生に説明する、計画するなどリーダーシップをとることを学べる。

○キーワード『教員間の連携』

- ・教員同士のつながりが強くなる。
- ・教師の交流がやりやすい。
- ・通常よりも多くの大人が子どもを見ることが出来る。
- ・教科担任制になれば先生方の不安も減るのでは？と思います。
- ・教員にも学び大。ここは小で学んでいる→利用・活用して中の授業づくり
- ・町の教育で大切にしたいことが共有しやすい。
- ・一人一人の良さ、苦手を共通理解。職員皆で対応。
- ・先生たちが特性のある子供に対するケアが、今よりも共有できる。
- ・子どもの情報の引きつぎ。
- ・教員間の連携
- ・手厚い支援
- ・小で完結、中で完結という発想でなく、子供の成長を長い目で見守れる。
- ・先生方が同じ方針を持って子どもと接することができる。
- ・子どもの成長を広くとらえられる（みんなで関わる）。
- ・小・中のズレ、感覚のズレ。難しいととらえるか、楽しいととらえるか。

○キーワード『地域力の向上』

- ・コミュニティスクールとしての機能ができやすい。
- ・（義務教育学校の場合）校長先生の重要性増！ 地域づくりには学校運営協議会も重要
- ・地域づくりと学校づくりを一緒に進めやすい。
- ・幼から高齢者まで、コミュニティ施設としての役割も。
- ・真の地域に開かれた学校をめざし、真鶴の知恵を伝承してほしい。
- ・魅力ある学校作りにより、他地区からの移住の増加につなげてほしい。
- ・地域・家庭のつながり
- ・町全体のまなびや化
- ・60歳を超えても学べる場にしてほしい。
- ・昼食も子どもと地域も一緒に。

○キーワード『部活動・給食への期待』

- ・部活動、クラブ活動の連続性
- ・9年間を見通したスポーツ課外活動
- ・早いうちから好きなものにとりくめる。
- ・クラブ活動+部活動。小学生はワクワクする？
- ・部活動での交流に期待！
- ・部活動等でも交流
- ・クラブ活動、部活動。一緒にチームが作れるよさも！
- ・指導者も確保（高校生等アルバイト、ボランティア）
- ・部活動への移行がやりやすい。
- ・小学校のクラブ活動と中学校の部活が活性化する。
- ・給食の実現
- ・中学校でも給食が始まると保護者はうれしい！
- ・中学校でも給食が食べられる！

○その他

- ・組織自体の再構築。
- ・防犯、防災の想定、ルールづくり。
- ・真鶴の教育の魅力を話し合っ、現状の教育がたいへんよいと思った。
- ・今の真鶴町の教育の強みを生かしたい。
- ・一貫校に良さを感じる家庭をうけいれる。
- ・場所についてですが、町中であってほしい!! と思うので、現在の小学校に作ってほしいな～と望みます！ スクールバスの活用。廊下・屋上から海見えます！
- ・子どものおむかえが楽になる。一ヶ所ですむ。
- ・室内プールつくってほしい。
- ・特別クラスの新設。特進クラス、学力支援クラス、美術や音楽など特技を伸ばすクラス。

不安なこと

○キーワード『人間関係の固定化』

- ・固定化。人間関係、自分らしさ。
- ・人間関係が固定化されやすい。いじめ、不登校が心配。
- ・〇〇さんはこういう人だよ。リセットができてにくい。
- ・人間関係でのつまずき
- ・子どもの逃げ場がない。リセットしにくい。
- ・逃げ場をなくす。
- ・こい～人間関係
- ・人間関係が9年間続くことに不安もある。
- ・施設一体では、（小6-中1のときのギャップは、切りかえで・あった面でも）自分を切りかえるタイミングを失う。
- ・心機一転はできない？
- ・教育方針が合わなかった場合、小学校→中学校で環境を変える事ができない事。
- ・こじれてしまった関係が継続されてしまうことへの不安がある。
- ・視野がせまい。競争心が足りない。
- ・環境の変化の少なさ（刺激、競争力）
- ・9年間、同じ環境にいることがいいことか？

- ・中1ギャップが少ないことはよさでもあり、人生の中では気持ちの切りかえも大切。
- ・ねんれいさ。年の差。話が合うかな～。
- ・上の子どもたちのしていることを真似する（悪いこと、良いこと）。
- ・子ども同士の関係、よくなる？固定される？
- ・低学年は上昇しやすく、高学年は幼稚化。

○キーワード『リーダー性を培う機会』

- ・6年生がリーダーにならず、リーダー性が心配。
- ・6年生で1度、1番上を経験してきたが、それがなくなる？
- ・小6の立場はどうなる？
- ・主体性、責任感、リーダーシップを育むシーンが少なくなる。
- ・リーダー、どうなる…。
- ・リーダーシップ発揮。
- ・リーダーシップを発揮する場も必要。
- ・最高学年の子どもたちに過度な負担がかかるのではないか。
- ・長男問題。9年生に負担が集中する？

○キーワード『学習面』

- ・その学校だけで完結してしまわないカリキュラム作り→「ここではよかった」にならないように。
- ・学習の差への対応
- ・学習の先取りができるが、学力格差も広がるのでは。
- ・区切り（4-3-2、5-4）への理解がどれだけ進むか。
- ・めんきょ。小・中どっちも…。
- ・先生の免許？ 中学の先生の免許で小学生を教えられるのか。
- ・転校してきにくい。
- ・町の方針や学校教育目標が意識されなくなることによる課題

○キーワード『学校間の調整』

- ・学校のシステムをつくり上げるのに、スタートして数年要しそう。
- ・日課、時間割
- ・休み時間の設定
- ・中休みが無くなる？
- ・施設の調整が必要になる？
- ・設備としてのトイレをどうつくるか。
- ・1年生（小学校）と中学3年生との体格の違い…。
- ・休み時間など校庭で遊ぶときに混雑（小さい子のケガ）しないか、安全面が心配です。（不安）
- ・施設の利用の仕方、すみわけが必要か。
- ・ほうかごあそぶ場所、どうなるの。
- ・学校生活のきまりや制服はどうなるのか。
- ・せいふくはどうなる？ 着たい、ジャージも。
- ・ランドセルはいつまで？ないの？
- ・部活は？
- ・ないとは思いますが…、受験生が勉強に集中できない。
- ・制服をどうする…？ 選択制にしてほしい。

- ・運動会等の行事のあり方
- ・部活、クラブ活動などは続けていくのか？
- ・部活のモチベ
- ・現場の負担、教員、職員の業務

○キーワード『卒業後』

- ・先進的すぎると周囲の地域との足並みがそろわない。高校入試制度とか、不安。
- ・高校入学時のギャップに苦しむのでは。
- ・中学卒業後の進路モデルができあがってしまう不安。
- ・過去には高校入学時に、変化、切りかわりに戸惑うことも…。そこを意識して欲しい。

○その他

- ・一学級が10人未満となる可能性。
- ・同じ年令が同じ学年？（長年のギモン）
- ・義務教育学校は一小一中の真鶴では、あまりに固定化しすぎ。もっと沢山学校がある。中の一つとして考えられるべき。
- ・校舎は新しくしたいが、制度まで変える必要があるのか。
- ・小中連携で十分だと思う。（もう決まったというが、町民として考えなおして欲しい。）
- ・小・中が近くにいるという期待はあると思うので、従来の形で建物が近くにでよいのでは。
- ・海外の日本人学校は、ほぼ9年一貫学校。ただし、PTAは上昇志向が強めであり、帰国後、名門校に進学している。

閉会

- ・真鶴町の子どもたちのために、後世に誇れるような、そして全国に誇れるような、素晴らしい一貫教育校を、真鶴町民みんなの力で創りたい。
- ・素晴らしい一貫教育校は、今日のような町民の皆さんの力を合わせていくことで、創り上げていくものだと思う。ただの建物ではない、みんなで創り上げる一貫教育校は、正に「町の宝」となり得るのだと感じる。
- ・「教育は人づくり、人づくりはまちづくり、まちの未来づくり。そして、そのすべての基盤は互いの信頼。」今日は町の未来を創るための話し合いの場。いろいろな学びの場、気づきの場となった。
- ・次回は、2月17日（土）9時30分から。テーマは「どんな校舎だったらワクワクするかな？」と「どんな施設があったら、学校に行きたくなるかな？」を考えている。子どもの目線に立つだけではなく、「学校を中心とした地域づくり」という視点に立つと、大人目線でこのテーマを考えてみることも大切なのではないかと思う。

○振り返りアンケート（主な感想は次の通り）

大変良かった 20名 よかった 16名 ふつう 0 よくなかった 0

- ・地域、保護者からの意見を聞くことができ新鮮でした。もっと深く話し合いができるように感じました。ありがとうございました。
- ・教育について自分自身も改めて考えることができました。未来について考えるとワクワクします!! ととてもよい会でした。ありがとうございました。
- ・話を聞いたり伝えたりすることで、感覚的だった真鶴の魅力や新しい学校について、具体的にイメージすることができました。楽しかったです。

- ・真鶴の教育の強みを再確認できた部分と、新たに発見できた部分がありました。良い学校ができるのと良いと思います。
- ・すべてが熱い気持ちを伝えたいと、みなさんの情熱がみちていたと思いました。どうもありがとうございました。
- ・テーマ2の発表を突然飯島先生にお願いしたが、ポイントを押さえ発表してくださった。先生方の協力は、町の大きな教育力である。
- ・真鶴のよさ、魅力を再確認し、明るい将来について話し合いができたこと、とてもよかったです。
- ・真鶴の教育の良さを再確認できました。また、普段はお話をしたことがない方々とじっくり話し合うことができ、たくさんの学びがありました。途中のお茶のサービス、ありがたかったです。BGMもステキでした!! ありがとうございました。
- ・町民がそれぞれの考えを伝え合う、とても貴重な場だと考えさせられました。義務教育学校か小中一貫型小中学校かについて、慎重に考えていって欲しいと思います。
- ・様々な人と意見交換ができ、有意義な時間とすることが出来た。20代の真鶴の子ども達も参加していて、しっかり意見を述べている姿をみて、あらためて真鶴の教育のすばらしさを感じた。オンリー真鶴の教育と学校づくりを楽しみにしています。
- ・初参加しました！ 真小・中卒業生として、もっと話し合いに参加したいと思いました。友人も誘って来たいと思いました。大変なことも多いですが、町にすてきな学校をつくる、すばらしい機会と思い、どんどん参加したいと思います。同じ学校を卒業した先輩や後輩に会えて良かったです!!
- ・町内、町外、教育関係者、親など様々な視点が交わる場で、クリエイティブな発想が生まれたと思います。
- ・色々な意見が聞けて、大変参考になりました。ただ、保護者としては新しい校舎ができてからではなく、今からできる事を今の校舎でどんどんやっていただきたいと感じました。
- ・いろいろな方と思いを語りあえる、とても良い場だと思います。他市町からの参加（現教育者以外にも）もあり、教育について、真鶴の未来について考えられていて、あたたかさを感じました。よい教育現場（学校）をつくっていったら良いです。
- ・色々な方とお話しでき、見聞が広がりました。ありがとうございました。
- ・地域の方の考えや思いにふれることができました。町で育てる真鶴町は、このような会がくり返されてできているのだと思います。
- ・様々な立場、視点、経験から議論することができ、学びに繋がりました。自分が気づいていなかった小中一貫型小中学校の良さを知り、子どもたちにとって良い存在となる学校になってほしいと感じました。
- ・初めて参加させていただき、町内外、異世代の方々と、真鶴の未来のことを語ることで良かったです。若いママさんも参加していただくと良いですね。
- ・真鶴在住ではありませんが、真鶴の将来について、みなさんと語り合えたこの時間は、とても貴重で有意義なものとなりました。これからの真鶴の学校の進む方向性を、地域の方と語り合える場に、ぜひ多くの住民に参加していただけるといいなと思いました。（特に学校の保護者など）
- ・前回に続いて楽しく有意義な会でした。町の子どもたちだけでなく、大人もワクワクしながら新しい学校にかかわれることが嬉しいです。

- ・これからの真鶴の子ども達や真鶴の事について、色々な話ができただけは良かったです。私の子どもは新しい学校に通う事はできないので（卒業している）、明日からでも子ども達にとって良いと思われる事を始めてほしいです。
- ・地域、保護者、教員、様々な立場からの意見が集まったのしかったです。
- ・結論を出さない話し合い方式は、いろいろな考えが出るので、とても有意義でした！子どもたちの考えも知ることができ、とてもよかったです。
- ・保護者、地域の人、教員、様々な立場の人が、これからの真鶴の子ども達のことを考えて交流できた。新校舎が“夢のある学校”になると良いです！
- ・現在、町内で小・中学校、幼稚園などに通学中の子ども達にも、新しい学校のカリキュラム、学びを体験させてほしいです。今の保護者達の協力、興味をえるには、そこがかかせない視点だと思います。
- ・いろいろなご意見をうかがって、たくさんの気づきがありました。勉強させていただきました。
- ・学校関係者以外の方々の視点が、大変参考になった。グループわけは、可能な限り偏りのない方がよい。（5名中、3名が教員…）
- ・小学校、中学校、幼稚園の先生方と、同じテーマで話し合いをする機会はないので、とても貴重な時間でした。義務教育学校が小中一貫かでいろいろ変わりそうですが、これからもいろいろ話していきたいです。
- ・テーマ1の設問だと、教育の実状をある程度知っていないと答えづらい。
- ・小・中学校がいっしょになったら、たのしみに思いました。そうぞうしただけでたのしみです。
- ・こんな学校があったらいいなといういけんを、いっぱい言えてよかった。
- ・他の方が感じている真鶴の魅力や、小中連携校のデメリット&メリットを知ることができてよかった。特に小学生の参加で、今の学校がどう見られているか、知れたことも良かったです。
- ・グループごとに各テーマに沿って議論でき、時間が足りない位、各々想いがあることも知れて、充実した時間でした。
- ・日本人学校や私立校など、50～60年も前から一貫校はあり、熱海の泉小中学校など小さな一貫校ではあるが、一定の情報を事前に共有してもらいたい。ゼロスタートでは意見も少ないと感じた。
- ・不安な部分（小・中一貫になることで学力に影響が出るのでは？etc.）について、同じような意見を持っている方がいることに、今後の希望を持てた。プラスの理想ばかりでは学校づくりは難しいと思う。
- ・制度や法律などの壁や制限について、副読本的な資料があると「これができそう。」「理想はこうだけど、実現できない…。」といった、踏みこんだ意見が出せそうでした。